

牧師 山本護 奏楽 山本恵美

※讃美歌は二番までうたいます

第一部礼拝 司式 青柳明美 9:30~10:30

第二部礼拝 司式 福田奈里子 11:00~12:00

前奏	黙想	祈禱
讃美歌	73 くすしきかみ	讃美歌 515 十字架の血に
祈禱		献金
信仰告白	使徒信条 566	讃詠 547 いまささぐるそなえものを
聖書	ホセア書 14:5~6	黙禱
	ガラテヤの信徒への手紙 2:19~20	主の祈り 564
讃美歌	280 わが身ののぞみは	頌栄 543 主イエスのめぐみよ
説教	『キリストと共に私も十字架に』	祝禱 後奏

「生きているのは、もはやわたしではない。キリストがわたしの内に生きておられる。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものだ(ガラテヤ 2:20)。「わたし(が)か」という主語を、どこまでもこの「私」自身の事柄としたい。

「私」は「徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていた(1:13)」。かつて私は律法の義によって、敵であるキリストを憎んでいた。だが私がどれほど憎もうとも、キリストは「私を愛し、私のために身を献げ(棄て)られた」。私が牙をむこうと、逃げ出そうと、「私のために御身を捨てた十字架」がここに建てられている。及第点に達しないどころか、キリストに大きな負債があった「私のために」だ。

パウロには、ダマスコへの途上で劇的な転換が起った(使徒 9:3~19)」。私の場合は、十字架の上空を旋回するばかりでなかなか着陸しなかった。転換の体験は、一人ひとりの苦しみや悲しみのように、その内容を比べることはできまい。ただキリストの愛と恵みは、同じ言葉で語ることができよう。

「わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法に死んだ。わたしは、キリストと共に十字架につけられている(ガラテヤ 2:19)」。律法とはいわば「神に愛される」ための条項であり、これに応えられる度合いで及第か落第か追試かが決まる。大掴みに言えば世の能力判定みたいなものだ。だから律法にこだわる心根は、神を愛するというより、神に応えうるか否かの自分を愛するようなもの。当然、他者に対してもそうした評価になろう。そして教会という世間では、信仰も律法化しやすい。

「神(条件なしの愛)」に対して生きるのか、「律法(自己愛)」に対して生きるのか。「私」は神に対して生き、律法に対しては死にたい。律法が本当のものでないと分っても、幼児期から教え込まれた価値観なので、これに死ぬことは案外難しい。だが私は「キリストと共に十字架につけられ(2:19)」、「キリストが私の内に生きておられる(2:20)」。だから私の律法は死に、キリストこそが私の主体となる。

「キリストが私の内に生きている」ことは、「神の子に対する信仰(2:20)」によって自覚できる。それでは信仰とは、精神的な思い込みのようなものか。いや、違う。この現実にはほかならない。「私が今、肉において生きている(2:20)」のだ。さらに、私がキリストと一つになるという姿も、西欧中世の神秘合一(unio mystica)とは違う。「私はキリストと共に十字架につけられて(2:19)」一つなのだから。

「わたしは背く彼らをいやし、喜んで彼らを愛する。まことに、わたしの怒りは彼らを離れ去った(ホセア 14:5)」。こうした神の愛と赦しは、神の民イスラエルに対して語られた(14:2)。たとえ背いても、神と共に歩んだ民だからこそ、聞き入れることができた。そして今や、この愛と赦しが、キリストの十字架によって(ガラテヤ 3:13)、極東アジアの田舎にいる私たちにも手渡されている。「それは～祝福が、キリスト・イエスにおいて異邦人に及ぶためであり～「霊」を信仰によって受けるため(3:14)」。

キリストが私の主体となり(2:20)、聖霊をこの身に受け、イスラエルの歴史を引き継ぐ。すなわち愛と赦しと永遠の現実を、だ。そしてここで、百合の花のように咲き、大木のような根を張る(ホセア 14:6)。

たとえキリストであっても 何の支配も受けたくない と思うか それでは自分史に刻まれている条件反射を自由と言うつもりか キリストとの一致は孤独 自他の何事にも制約されないのだから

本日礼拝後 13:00~臨時総会を開きます。現住陪餐会員の皆さんは集まってください。牧師の動き:7/12 山梨教誨師会の用で東京出張、7/14 山梨YMCAで聖書の話、7/15 甲府刑務所で終日教誨。

礼拝堂・集会所の住所:408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ:408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳伝道所」で検索して下さい。